

健幸都市くさつの推進に向けて

各施策の主な取組に係る令和3年度の実績および令和4年度の計画について

令和4年8月
草津市



草津市健幸都市宣言および草津市健幸都市基本計画の策定について

本市では、平成28年8月に「草津市健幸都市宣言」を行い、だれもが生きがいをもち健やかで幸せに暮らせる健幸都市づくりを推進するため、平成29年3月に「草津市健幸都市基本計画」を策定いたしました。

草津市健幸都市宣言

生涯にわたって心も体も健やかで幸せに過ごせること

これはわたしたち共通の願いです

心身の健康には 自分の状態を知ること 適度な運動と休養

バランスのとれた食事など 一人ひとりの取組が大切です

美しい自然や 住みやすい都市環境も大切です

そして ともに住む人と人との絆や協働も大切です

くさつは いにしえから 東海道と中山道がまじわる交通の要衝

宿場町として栄えてきました

人と人が出会い 心と体を休め 旅の疲れを癒してきました

琵琶湖・田園などの豊かな自然環境もあり

そこから得られる 恵みも豊富です

今を生きるわたしたちも この地で 出会いと自然に感謝しながら

住み続け 訪れることで 健幸になれるまちを

ともに創造していきましょう

草津市は 生涯にわたって 一人ひとりが自らの健康を大切にし

ともに支え合い ここに暮らすことによって

絆や喜びが生まれ 幸せが感じられる

笑顔あふれるまちを目指して

ここに「健幸都市くさつ」を宣言します。

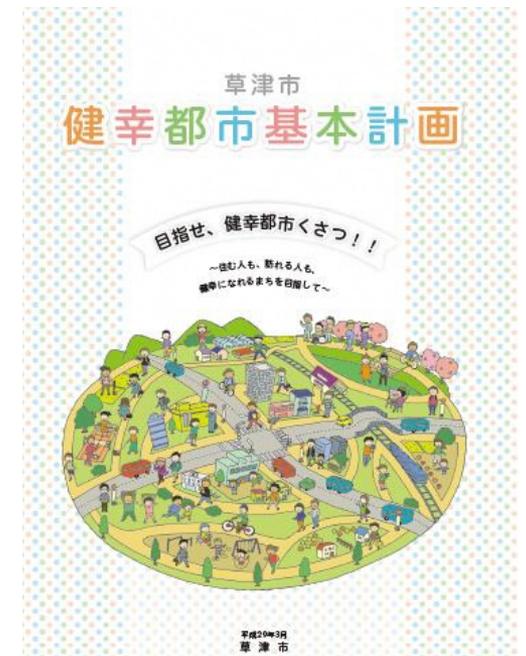
平成28年8月28日 草津市長 橋川 渉

草津市健幸都市基本計画

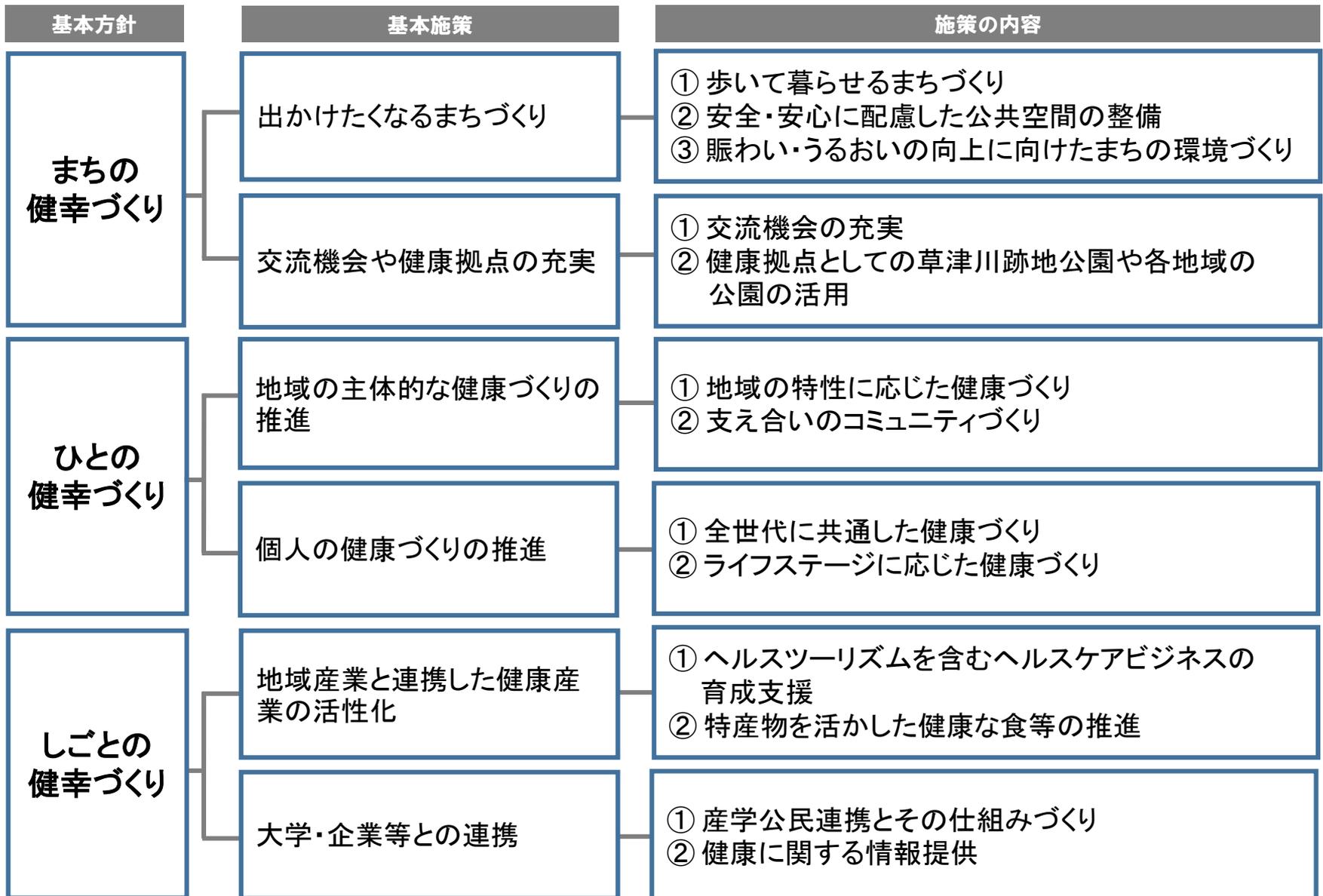
○ 「第5次草津市総合計画」を上位計画とし各種関連計画との整合を図りながら、市の様々な関連計画を健幸の側面から捉え、健幸都市実現のための取組を連携・強化していく計画です。

○ 「草津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、本計画においても「まち」「ひと」「しごと」を切り口に、健幸づくりの取組を定めています。

○ 【計画期間】
平成29年度から
令和4年度までの
6年間です。



健幸都市基本計画の体系



草津市健幸都市基本計画

基本 施策 基本方針

《まちの健幸づくり》

- (1) 出かけたくなるまちづくり
- (2) 交流機会や健康拠点の充実

《ひとの健幸づくり》

- (1) 地域の主体的な健康づくりの推進
- (2) 個人の健康づくりの推進

《しごとの健幸づくり》

- (1) 地域産業と連携した健康産業の活性化
- (2) 大学・企業等との連携

施策ごとの主な取組と進捗状況

①コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりに向けた計画の策定

⇒草津市立地適正化計画、草津市地域公共交通網形成計画を策定(H30)

②草津市バリアフリー基本構想の推進

⇒草津駅・南草津駅周辺を重点整備地区としてバリアフリー化事業を実施

③たばこ対策の推進

⇒閉鎖型喫煙所を整備(R2)

④草津市版地域再生計画の策定

⇒草津市版地域再生計画を策定(H30)、地域別プランの作成・推進(R1～)

⑤市民総合交流センターの整備

⇒供用開始(R3.5月)

⑥草津川跡地公園でのウォーキング等を中心とした健康イベントの実施

⇒各種イベント開催(H29～)

⑦児童公園等の再整備

⇒施設改修・遊具更新(H29～)

など

①各まちづくり協議会の健幸宣言実現に向けた取組の推進

⇒地区別の健康データの分析・取組推進(H30～)

②地域包括ケアシステムの推進

⇒在宅医療・介護連携の推進、認知症に関する啓発、介護予防・日常生活支援サービス事業等を展開(H29～)

③福祉の総合的な相談体制の強化

⇒福祉の総合相談窓口「人とくらしのサポートセンター」において多様で複合的な悩みなどの相談支援を実施

④働く世代の健康増進

⇒協会けんぽ等と連携した集団健診の実施、特定健診会場でがん検診を実施(H29～)

⑤健幸ウォークの開催

⇒健幸都市くさつランフェスティバル開催

⑥中学校給食の実施

⇒中学校給食開始(R3年度3学期～)

など

①「ピワイチ」の推進

⇒ピワイチ観光推進のため、イベントの開催やサイクリストの受入環境を整備(H29～)

②草津ブランドの構築・PR

⇒草津ブランド市を開催

③企業版健幸宣言の推進と企業連携

⇒健幸都市宣言賛同事業所数：228か所(R3)

④健幸都市くさつの啓発

⇒健幸フェア等のイベントを実施(H29～)

⑤アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)の活用

⇒健幸都市づくりに関係するテーマについてのセミナー等および社会実験準備事業等を実施(H29～)

など

《まちの健幸づくり》主な取組

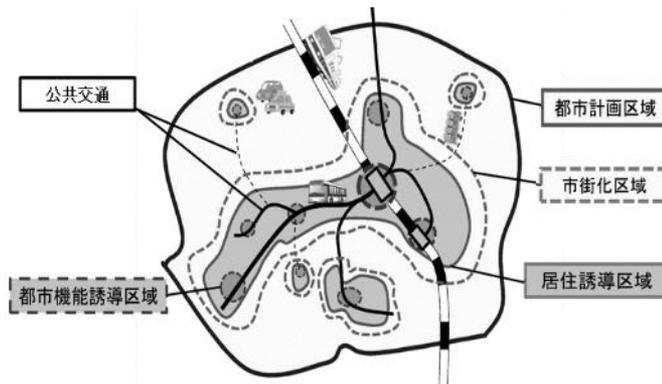
①コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりに向けた計画の策定 【都市計画課・交通政策課】

(施策の内容: 歩いて暮らせるまちづくり)

全国では、高齢化・人口減少が進む中で、地域活力の維持や医療・福祉・商業等の生活機能の確保を行うとともに、みんなが安心して暮らせるよう、公共交通と連携してコンパクトなまちづくりを進める「コンパクト・プラス・ネットワーク」が進められています。

本市においても、日常生活が充足できる居住環境や、都市機能を確保できるよう、将来を見据えた都市機能をマネジメントします。

※ 「コンパクト・プラス・ネットワーク」イメージ



R 3	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○平成30年10月に策定した草津市立地適正化計画に基づく届出制度について、周知を行うとともに、適正な運用を図りました。 ○平成30年10月に策定した草津市地域公共交通網形成計画(令和2年の法改正後の草津市地域公共交通計画)に基づき、地域の特性に応じた具体的な施策(まめバス「商店街循環線」の運行経路の一部変更、まめバス「草津駅下笠線」の実証運行、まめタク実証運行の延長)を検討し、各施策の推進を図りました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○草津市立地適正化計画に基づく届出制度について、周知を行うとともに適正な運用を図ることができ、持続可能な集約型の都市づくりの推進につながりました。 ○将来を見据えた持続可能な公共交通ネットワークを形成するための施策展開について検討する必要があります。
R 4	計画	<p>(予算額:0円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○草津市立地適正化計画 引き続き、草津市立地適正化計画に基づく届出制度の適正な運用を行い、持続可能な集約型の都市づくりを推進します。 ○持続可能な公共交通ネットワークを形成するため、まめバス「商店街循環線」の運行経路の一部変更、まめバス「草津駅下笠線」の本格運行移行、まめタクの本格運行移行を行うとともに、各施策の推進を図ります。

《まちの健幸づくり》主な取組

②草津市バリアフリー基本構想の推進 【交通政策課・道路課】

(施策の内容:安全・安心に配慮した公共空間の整備)

市民の誰もが自由に移動できる環境を創造し、公共スペースのバリアフリー化と歩行者の安全確保を目指して策定した草津市バリアフリー基本構想の推進を図ります。

「すべての人が心地よく移動できるまち“草津”」を基本理念とし、事業を「短期」「中期」「長期」に分け、「草津駅周辺」および「南草津駅周辺」の2地区を重点整備地区として設定し、重点的にバリアフリー化事業を実施します。



▲令和3年度設計場所

R3	実績	<ul style="list-style-type: none">○「草津市バリアフリー基本構想」の重点整備地区内での整備状況について進捗管理を行いました。○当該基本構想に基づき、重点整備地区内のバリアフリー化整備のための設計業務を実施しました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none">○基本構想に基づく、駅周辺の道路改良工事に向けた環境を整えたことにより、すべての人が安心して移動できるまちづくりの推進につながりました。○引き続き、基本構想の重点整備地区内での整備状況について進捗管理を行っていく必要があります。
R4	計画	<p>(予算額: 15,000千円)</p> <ul style="list-style-type: none">○引き続き、基本構想の重点整備地区内での整備状況について進捗管理を行い、当該基本構想の推進を図ります。○基本構想に基づき、重点区域における、バリアフリー化の事業を推進します。

《まちの健幸づくり》主な取組

③たばこ対策の推進 【生活安心課・健康増進課・子育て相談センター】

(施策の内容: 安全・安心に配慮した公共空間の整備)

草津市では、草津市路上喫煙の防止に関する条例に基づき、平成20年12月1日より、草津駅および南草津駅周辺を「路上喫煙禁止区域」として指定し、平成28年9月1日には、路上喫煙禁止区域を拡大しました。

今後、国のたばこ法制の動向やたばこ対策の強化の状況を見据えながら、公共空間の受動喫煙防止対策の強化を進めます。



▲閉鎖型喫煙所(草津駅東口)

R 3	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○路上喫煙禁止区域内の啓発活動を年間324回実施しました。なお、路上喫煙禁止区域内の草津駅西口周辺については、令和2年度にオープン型のマナースペースを廃止したため、啓発実施回数(24回)を増加し、特に啓発を強化しました。 ○草津駅西口周辺における閉鎖型喫煙所の整備について、調査・検討を行いました。 ○「世界禁煙デー」「禁煙週間」に合わせて、草津市内の健幸都市賛同事業所に対し、受動喫煙の防止や禁煙についての啓発を実施しました。 ○JR南草津駅と草津市役所市民課前のデジタルサイネージや草津市役所の館内放送を用いて受動喫煙防止の啓発を行いました。 ○妊娠届出時、乳幼児健診等の機会をとらえて喫煙や受動喫煙の防止について普及・啓発を行いました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○路上喫煙禁止区域内での啓発活動により、喫煙者へ喫煙マナーについて啓発することができました。 ○草津駅東口、南草津駅東口および西口の路上喫煙禁止区域内には閉鎖型喫煙所を整備しており、非喫煙者の受動喫煙対策を講じていくことができます。 ○草津駅西口周辺における閉鎖型喫煙所の整備について、対応策の検討が必要です。 ○健幸都市賛同事業所への啓発を通じて、受動喫煙の防止や禁煙について広く周知することができました。 ○母子健康手帳交付時等において妊娠時の喫煙や受動喫煙が胎児に与える影響等を伝え、啓発することができました。 ○乳幼児健診時にDVDやチラシを用いて喫煙や受動喫煙の防止について啓発することができました。
R 4	計画	<p>(予算額: 10,494千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○路上喫煙禁止区域内での喫煙防止啓発活動を実施します。 ○喫煙や受動喫煙等の防止について普及・啓発を行います。 ○マナースペースの実態調査や歩行者に占める喫煙者の割合等の調査を行い、路上喫煙率の把握に努めます。 ○禁煙しようとする市民を支援します。

《まちの健幸づくり》主な取組

④草津市版地域再生計画の策定 【都市地域戦略課】

(施策の内容:賑わい・うるおいの向上に向けたまちの環境づくり)

郊外部における地域の活性化を図るため、平成30年10月に草津市版地域再生計画を策定しました。今後の超高齢化・人口減少社会を見据え、持続可能なまちづくりを目指します。

R3	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○各地域において住民の皆様とワークショップや検討会議にて議論を重ね、老上西学区、笠縫東学区については、地域別のプランを新たに作成し、令和4年3月に公表しました。 ○地域再生推進委員会を開催し、関係部局との連携を図りました。計2回開催 ○地域再生推進協議会を開催し、地域別のプランについての議論を行うとともに、地域間の情報共有を図りました。(10月4日、3月16日の計2回開催) ○若手住民を中心に専門家を招いての意見交換やワークショップを開催しました。(山田学区:計8回開催)
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○各地域において住民の皆様とワークショップや検討会議にて議論を重ね、老上西学区、笠縫東学区については、地域別のプランを作成し、公表することができました。また、既に地域別のプランが作成されている常盤学区、山田学区、笠縫学区、志津学区については、支援を行うことで各プランの推進を図ることができました。 ○地域再生推進委員会では関係部局との連携を図り、地域再生推進協議会では、地域別のプランについての議論を行い、地域間の情報共有につながりました。 ○若手住民を中心に専門家を招いたワークショップを開催し、地域の意見を取りまとめるとともに、特産物を活用した商品の開発等に取り組むことで施策の推進に寄与しました。
R4	計画	<p>(予算額:33,800千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○草津市版地域再生計画に基づいて作成された各学区のまちづくりプランについて、当該プランに示された具体的な取組を進め、地域振興を図ります。 ○下物町地区計画において開発が予定されている商業施設について、周辺住民が安全にアクセスできるよう道路の整備(実施設計・工事)を行います。



《まちの健幸づくり》主な取組

⑤市民総合交流センターの整備 【まちづくり協働課】

(施策の内容: 交流機会の充実)

草津駅周辺の各公共施設の老朽化が著しく、耐震補強等の改修工事が必要であったことから、公共施設の機能を集積した「中心市街地活性化のコア施設」として、令和3年5月に市民総合交流センター「キラリエ草津」をオープンしました。

中心市街地に人、モノ、情報が交流する施設として、地域の振興やまちの賑わいを創出するとともに、「子育て支援のための空間」や「多世代交流のための空間」等の新たな機能も加えて、全世代が集い、創出的で多様な活動を展開できる魅力ある都市福利施設を目指します。

子育て支援拠点施設「ココクル♥ひろば」、人権センター、商工会議所、社会福祉協議会、コミュニティ事業団、男女共同参画センター など

※4階の交流スペースに健幸ステーションを設置しています。



▲市民総合交流センター

R3	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○年9回入居者会議を開催しました。 ○市民総合交流センターにおいて、ラウンドテーブルを様々なテーマで年5回実施しました。
	評価課題	<ul style="list-style-type: none"> ○入居者会議、ラウンドテーブルの開催により、入居団体同士や市民活動団体同士の交流と理解を深めることができました。 ○交流の根幹部分である5階の「協働ひろば」の利用が伸び悩んでいることから、市民活動の活性化や市民交流の促進のため、利活用しやすい空間づくりが必要です。
R4	計画	<p>(予算額:81,595千円) ※市民総合交流センター管理運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、様々な団体が入居する複合施設の強みを生かし、市民と行政が、互いに交流・協働することにより、社会的、公益的なまちづくり活動を推進するとともに、各入居団体の連携を図り、多様な市民活動の展開を支援します。 ○5階協働ひろばの空間デザインを行い、市民活動の活性化や市民交流の促進を支援します。

《まちの健幸づくり》主な取組

⑥草津川跡地公園でのウォーキング等を中心とした健康イベントの実施 【健康福祉政策課・都市地域戦略課】

(施策の内容:健康拠点としての草津川跡地公園や各地域の公園の活用)

イベントの実施を検討し、草津川跡地公園が普段使いの身近な健康拠点となるような取組を進めます。

R 3	実績	<p>○4月1日(木)～4日(日)に「ピクニックウィーク」として、卓球台や大きな積み木など芝生エリアに様々なアクティビティを設置し、人々の交流とにぎわいを生み出すイベントを実施しました。</p> <p>○11月13日(土)に健幸づくりをテーマにした体験イベント「健幸フェア」を実施しました。</p> <p>○新たな取組として、健康の意識を高めてもらうために、当日の健幸フェア以外に11月中にチラシ掲載のお店で健康関係の特典を受けられる「お外de健幸体験」を実施しました。</p>
	評価・課題	<p>○新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、イベントを実施することにより、人の流れを生み出し、中心市街地エリアの賑わい創出に寄与するとともに、健幸に対する機運の向上を図ることができました。</p> <p>○健康拠点として草津川跡地公園をPRし、ランニングやウォーキングの普段使いの場としての活用を促進できました。</p>
R 4	計画	<p>(予算額:7,035千円)</p> <p>○中心市街地エリア内の公共空間で、健幸を意識した、賑わいを創出するイベントを実施します。</p> <p>○ウォーキングなど日ごろ運動をしていない方でも気軽にはじめられ、幅広い層の市民がとりくみやすいスポーツイベントや、食も含めた健康づくりのきっかけとなるイベントを実施します。</p>



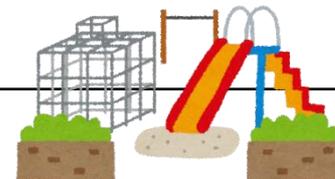
▲ピクニックウィーク

⑦児童公園等の再整備 【公園緑地課】

(施策の内容:健康拠点としての草津川跡地公園や各地域の公園の活用)

設置後相当年数が経過した児童公園等を対象として、地元の見意見を聴きながら、外遊びやボール遊び、大人の健康づくりなど、地域のニーズに応じた公園になるようリニューアルを進めます。

R 3	実績	○9箇所の公園について、再整備工事を実施しました。
	評価・課題	○9箇所の公園について、再整備工事を実施し、健康遊具の設置など地域のニーズに沿った公園環境を整備することができました。
R 4	計画	<p>(予算額:14,796千円)</p> <p>○市民の憩いの場として設置後相当年数が経過した児童公園等を対象に、健康遊具の設置など再整備に向けた取組を進めていきます。</p>



《ひとの健幸づくり》主な取組

①各まちづくり協議会の健幸宣言実現に向けた取組の推進 【地域保健課・保険年金課】

(施策の内容: 地域の特性に応じた健康づくり)

各まちづくり協議会と市が協働して、地域の特性を踏まえた健康づくりに取り組む仕組みづくりを進めます。

R 3	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の特性や健康課題について各まちづくり協議会と共有を図り、啓発媒体の作成や健康フェスタ、健康講座等の取組を支援しました。 ○受診機会の拡大を目的に、引き続き常盤まちづくりセンターで集団健診を実施しました。(受診者39人、令和2年度:14人)
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民が主体的に地域の健康づくりに取り組むことができるよう支援することで、地域の特性に応じた健康づくりの推進につながりました。 ○今後は、幅広い世代の住民が主体的に健康づくりや介護予防に取り組むことができるよう、更なる地域づくりが必要です。 ○常盤学区の広報で集団健診の周知を行ったことにより、受診者数を増やすことができました。 ○今後も、地域ごとの受診率を分析し、集団健診実施の検討や、地域ごとの効果的な受診勧奨の検討が必要です。
R 4	計画	<p>(予算額:1,128千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域が主体的に健康づくりや介護予防に取り組むことができるよう、まちづくり協議会をはじめ、企業や商業施設等の関係機関と協働した支援を行います。 ○医療機関が少ない地域において、地域まちづくりセンターでの集団健診を実施します。

■各まちづくり協議会の健幸宣言（平成28年8月28日）

ち

＜健康意識の高揚＞

ちいきのみんなが健康への理解を深め、健康と幸せの輪を広げます！

い

＜生活習慣の改善＞

いつまでも健やかで幸せな生活が送れるよう生活習慣の改善に努めます！

き

＜生活習慣病等の発症予防＞

きっちり健康管理をおこない健康診断の大切さを訴えていきます！

か

＜栄養・食生活＞

カロリー等、バランスのとれた食生活を心がけます！

ら

＜身体活動・運動＞

らしく体を動かして、地域の運動習慣を広めていきます！



▲健幸都市くさつキックオフシンポジウム(H28)にて

《ひとの健幸づくり》主な取組

②地域包括ケアシステムの推進 【長寿いきがい課・地域保健課】

(施策の内容: 支え合いのコミュニティづくり)

地域で安心して医療・介護サービスを受けることのできる基盤づくりとしての医療・介護連携の推進、関係機関と連携した認知症施策の推進を図るとともに、介護予防・生活支援サービスや介護サービスの充実を図ります。

また、介護予防・日常生活支援総合事業においても、機能回復訓練等の高齢者本人へのアプローチだけではなく、いきいき百歳体操や地域サロンといった、要介護度等によって区別されない住民主体の通いの場の充実など、高齢者本人を取り巻く環境づくりを進めていきます。



R 3	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源や地域の高齢者の特徴を踏まえ、住民が地域の関係者を交えて地域の課題を共有し、「我が事」ととらえ、課題解決に向けて話し合う場を持つとともに、課題解決に向けた取組が生み出される仕組みづくりを支援しました。(生活支援体制整備事業における学区の医療福祉を考える会議の開催数: 13学区) ○支援を必要とする高齢者の個々の状態にあったサービスの提供に努めるとともに、住民等多様な主体が参画し、地域の支えあい、助け合いの体制づくりを進めることができるよう支援しました。 ○草津市在宅医療介護連携センターにおいて多職種連携推進会議や多職種交流会等を開催し、在宅医療と介護の連携を進めました。 ○地域包括支援センターにおいて、高齢者の総合相談窓口として様々な相談への適切な対応を図りました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○「学区の医療福祉を考える会議」の開催および「生活支援体制整備事業における協議体の設置」に至っていない学区について、引き続き会議の開催・協議体の設置に向けた支援を行っていく必要があります。 ○学区の医療福祉を考える会議を通じて、地域の支え合い活動を推進することができました。 ○多職種の連携体制を更に強化し、医療と介護を一体的に提供できる連携体制を充実していく必要があります。 ○地域ネットワーク活動の充実を図ることにより、支援を必要とする高齢者に対して相談・支援を実施することができました。
R 4	計画	<p>(予算額: 430,087千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度に策定した草津あんしんいきいきプラン第8期計画に掲げる基本目標「地域包括ケアシステムの深化・推進」に資する以下の基本施策に関する取組を進めます。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケアネットワークの構築 ・助け合い・支え合い活動の充実 ・在宅医療・介護連携の推進 ・地域包括支援センターの機能強化

《ひとの健幸づくり》主な取組

③福祉の総合的な相談体制の強化 【人とくらしのサポートセンター】

(施策の内容: 全世代に共通した健康づくり)

多様で複合的な課題を抱える生活困窮者を支援するためには、各自治体における包括的で分野横断的な取組が不可欠とされており、草津市では「人とくらしのサポートセンター」を開設して対応してきました。

より多様化、複雑化する福祉ニーズに対応できるよう、今後、生活困窮者に限らず複合的な課題を抱えた人たちへの対応を行うため、福祉の総合的な相談体制の強化について検討を進めます。



R 3	実績	<p>○福祉の総合相談窓口「人とくらしのサポートセンター」において、多様で複合的な悩みなどの相談支援を行い、庁内関係課や外部団体との連携を図るため運営会議を開催するとともに、ホームページや広報くさつへの掲載等により周知を図りました。</p> <p>○生活困窮者自立支援事業では、自立相談支援や住居確保給付金、就労準備支援事業、一時生活支援事業、家計改善支援事業、子どもの学習支援事業等の事業に取り組みました。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により、相談に訪れた市民に対し、住居確保給付金や生活困窮者自立支援金等の適用、社会福祉協議会の特例貸付を紹介などの支援を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人とくらしのサポートセンター 総相談件数 1,043件(生活困窮者自立相談 1,024件、総合相談 19件) ・住居確保給付金 101件(延長、再延長、再々延長含む) ・就労準備支援事業 11件 ・家計改善支援事業 14件 ・生活困窮者自立支援金 127件 ・一時生活支援事業 6件 ・子どもの学習支援事業 1件 <p style="text-align: right;">※すべて実件数</p>
	評価・課題	<p>○新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、令和3年度も1,000件を超える相談件数がありましたが、生活困窮者自立支援制度の適用や各種制度の紹介、関係課・関係機関と連携を図ることで、コロナ禍における多様な福祉ニーズへの支援を適切に実施することができました。</p> <p>○多様で複合的な悩みの相談に対しては、センターの相談体制強化と関係課・関係機関との更なる連携強化が必要です。</p>
R 4	計画	<p>(予算額: 54,677千円)</p> <p>○福祉の総合相談窓口「人とくらしのサポートセンター」において、生活困窮者を含む多様な課題について相談を受けるとともに関係機関との連携を密にし、必要な支援に繋がります。</p>

《ひとの健幸づくり》主な取組

④働く世代の健康増進 【健康福祉政策課・健康増進課・保険年金課】

(施策の内容: ライフステージに応じた健康づくり)

市の企業・団体版健幸宣言の実施やそれに基づく取組の推進を図るとともに、他の保険者等との連携により、働く世代の健康増進対策を強化します。



	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○医療機関での個別けん診、および特定健診会場での集団けん診を8回実施しました。 ○「くさつ運動チャレンジ」参加事業所と利用者にアンケートを実施しました。利用者のアンケート結果では、事業に参加して「とても良い」「良い」と答えた方が100%でした。また、運動に対しては、良い意識変化があったと答えた方が87%でした。 ○協会けんぽや他の被用者保険と合同で8回集団健診を実施し、特定健診は341人(令和2年度:154人)の受診がありました。 ○受診券送付時に集団健診案内チラシを同封することや、未受診者への個別勧奨において集団健診の受診案内を行いました。
R3	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○R2新型コロナウイルス感染症の影響により、特定健診会場での集団けん診や個別勧奨・再勧奨を中止しておりましたが、R3では子宮頸がん検診と乳がん検診の勧奨を再開したことで、子宮頸がん検診と乳がん検診の受診者数が増加しました。 ○R2で受診されなかった方がR3に受診していた可能性もあるため、R4での受診者数の推移を確認していく必要があります。 ○「くさつ運動チャレンジ」の参加17事業所は事業実施前と比べ、20～50歳代(若者・働き世代)の利用者が増え、事業に参加して「とてもよかった」「よかった」と回答されました。利用者全体では女性が7割であり、男女年代は40～50代が56%と半数を占め、事業が運動意識の改善に寄与したことがわかりました。今後は、事業を知っているが参加しない人の意見を聞く機会を設け、事業評価をしていく必要があります。 ○特定健診の9月の未受診勧奨通知後は、受診者数が増加したことから、受診率向上に効果がありました。8月から10月は募集定員に達していない日があり、データヘルス計画に記載の目標受診率50%は達成していないことから、きめ細やかな受診率向上対策に取り組んでいく必要があります。
R4	計画	<p>(予算額: 113, 239千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療機関での個別けん診、および特定健診会場での集団けん診において、胃がん(X線)検診、肺がん・結核検診、子宮頸がん検診、乳がん検診、大腸がん検診、肝炎ウイルス検診、プレ特定健診の同時実施を継続し、受診機会の拡大を図ります。 ○がん検診は、ナッジ理論を活用した勧奨を行い、受診者の増加を図ります。 ○啓発については引き続き、あらゆる機会に実施します。 ○野菜摂取量増加をねらう「草津ベジランチ」と運動の習慣化を目指した「くさつ運動チャレンジ」を合わせ、食と運動の両面から市内飲食店や運動事業所と連携し、健康づくりについて市民へ啓発し、健康増進維持や向上をめざします。 ○被用者保険と連携し、8月から1月にかけて合計9回(国保被保険者の1回あたり定員50人)の集団健診を共同実施します。働く世代の受診率向上につながるよう、土曜日にも実施日を設け、新たに市役所会場やキラリエ草津でも実施します。 ○生命保険会社との連携協定により、集団健診会場での健康ブースを充実させ、国保に限らず、市民の健康意識向上を図ります。

《ひとの健幸づくり》主な取組

⑤ 健幸ウォークの開催 【スポーツ推進課】

(施策の内容: 全世代に共通した健康づくり)

スポーツを生涯にわたって取り組むためには、ライフステージに応じて、誰もが気軽にスポーツに取り組むことができる機会の充実を図ることが必要です。令和元年度より健幸都市くさつランフェスティバルの実行委員会が設置され、開催に向けて協議や準備等を進めています。

R 3	実績	○令和3年10月16日(土)の開催に向けて協議や準備等を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況から、令和4年度に延期となりました。
	評価・課題	○新型コロナウイルス感染症の状況に応じたイベント内容および感染拡大防止対策を徹底した実施方法を検討することが課題です。
R 4	計画	(予算額: 2,000千円) ○誰もが気軽に参加でき楽しめる「健幸都市くさつランフェスティバル」の開催に向け、民間事業者主体で構成する「健幸都市くさつランフェスティバル実行委員会」に対して支援を行います。



⑥ 中学校給食の実施 【第二学校給食センター】

(施策の内容: ライフステージに応じた健康づくり)

「草津市中学校給食実施基本計画」に基づき、中学校給食の実施に向けた取組を推進します。

R 3	実績	○草津市第二学校給食センターの建設工事、草津中学校および新堂中学校の配膳室の増築工事、給食の調理・配膳等、給食センター運営に必要な備品等を購入し、令和3年度3学期より給食センター方式による中学校給食の提供を開始しました。
	評価・課題	○計画通り、令和3年度3学期より中学校給食の提供を開始し、次世代を担う子どもたちの健全な心身を育むとともに、すこやかな成長と学びを支えることができました。
R 4	計画	(予算額: 379,678千円) ○中学校給食実施のために必要な管理運営を行うとともに、給食の提供を通じた食育を推進します。



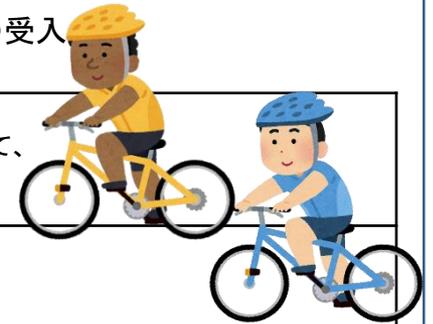
▲草津市第二学校給食センター

《しごとの健幸づくり》主な取組

①「ビワイチ」の推進 【商工観光労政課】

(施策の内容:ヘルスツーリズムを含むヘルスケアビジネスの育成支援)

県や関係市と連携し「ビワイチ」観光を推進するため、自転車関連イベントの開催や、サイクリストの受入環境整備を進めます。



R 3	実績	○一般社団法人草津市観光物産協会を中心として、草津市(草津川跡地公園ai彩ひろば)を帰着点として、湖南四市を周遊するサイクルイベントを実施しました(11月14日開催)。
	評価・課題	○参加者182名のうち約3割の54名が近畿圏外から参加されており、想定以上に「ビワイチ」の認知度や遠方からの需要が見込めました。 ○今後も滋賀県や関係市町と連携し、広域的な視点で事業を展開していくことが必要です。 ○今後、集客および事業の効率化に注力し、参加費や協賛金の拡大を目指す必要があります。
R 4	計画	(予算額:2,600千円) ○サイクリストの誘客ならびにリピーターの確保、地域資源の再発見、地域経済の活性化、自転車の安全な利用促進を目的に開催します。

②草津ブランドの構築・PR 【農林水産課・商工観光労政課】

(施策の内容:特産物を活かした健康な食等の推進)

草津ブランドを地域で育て、地産地消につなげることで地域産業の活性化や草津市のイメージアップを図り、全国に誇れるブランドへと育てていきます。



▲草津あおばな

R 3	実績	○草津ブランドを広く市民に周知するため、アル・プラザ草津にて草津ブランド市を開催しました(11月20日開催)。 ○SNSでの情報発信や、草津ブランドのパネル展示など、草津ブランドのPRを行いました。 ○草津ブランド候補商品の開発にかかる経費の一部を補助することで、「文房具用あおばなインク」や「食品用あおばな色素粉末」の開発に繋がりました。 ○立命館大学と連携し、草津ブランドのパンフレットを作成しました。
	評価・課題	○草津ブランド市の開催やSNSでの情報発信等を通じて、草津ブランドの認知度の向上が図れました。 ○草津ブランド認証品を使用した商品、または、地域の特色ある産品等を活かした草津ブランド候補商品の開発への補助を通じて、草津ブランドの更なる推進と市内の農商工業振興が図れました。 ○立命館大学とのパンフレット作成を経て、新たな企画が発案されるなど、次年度以降の産官学連携活動へと繋がる結果となりました。
R 4	計画	(予算額:4,145千円) ○草津ブランドとして認証を受けている草津産農産物(ベジクサ)や加工品・工芸品をより多くの市民に知ってもらうため、PRイベントやSNSによる情報発信を実施するとともに、商品開発や販路開拓等を促進していくことで、草津ブランドの創造・浸透・発展を図っていきます。

《しごとの健幸づくり》主な取組

③企業版健幸宣言の推進と企業連携 【健康福祉政策課】

(施策の内容:産学公民連携とその仕組みづくり)

草津市が一丸となって健幸都市づくりを進めるため、健幸都市宣言に賛同いただける企業や団体、また健幸づくりの取組に関する宣言を行っていただける企業や団体の募集を継続するとともに、当該企業や団体の優れた取組を公表・PRする機会を設けます。

R 3	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○合計228か所(前年比14増)【まちづくり協議会の健幸宣言:14学区、健幸宣言事業所:64か所 健幸宣言賛同事業所:150か所】 ○7月に人権啓発の事業所啓発と併せて賛同企業の募集を行いました。 ○賛同事業所の社用車や事務所等に啓発マグネットシートを掲示いただきました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○健幸都市宣言への賛同を多くの企業に働きかけることができました。その結果、賛同事業所数が228事業所まで増加しました。(年度末時点) ○啓発マグネットシートが貼られた社用車で移動いただいたことで、健幸都市の啓発につながりました。
R 4	計画	<p>(予算額:0円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○草津市健幸都市宣言への賛同の募集については、あらゆる機会企業への働きかけを行います。 ○草津市健幸都市宣言賛同事業所へ市のイベントや健幸都市づくり情報を提供し、イベントに出展いただくなど連携した取組を進めます。

④健幸都市くさつの啓発 【健康福祉政策課】

(施策の内容:健康に関する情報提供)

様々な機会を通して「健幸都市くさつ」の普及啓発を進めます。

R 3	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○啓発マグネットシートを作成し、公用車に貼付しました。また、健幸都市宣言賛同事業所の社用車や事務所等に掲示いただきました。 ○布製で持ち運びしやすい横断幕を作成し、イベント等で活用しました。 ○立命館大学に啓発立て看板を設置しました。 ○「健幸都市くさつ」ののぼり旗を作成しました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○健幸都市宣言賛同事業所や大学と連携した周知啓発ができました。 ○より一層、全市的に「健幸都市くさつ」の啓発に取り組む必要があります。 ○新たなツールを使った啓発が必要です。
R 4	計画	<p>(予算額:180千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な主体と連携しながら、健幸都市のポスターやのぼりの掲示、市のホームページ等での情報発信に力を入れて取り組みます。



▲啓発マグネットシート



▲啓発立て看板

《しごとの健幸づくり》主な取組

⑤アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)の活用 【草津未来研究所・健康福祉政策課】 (施策の内容:産学公民連携とその仕組みづくり)

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)は、産学公民が対等な立場で、草津の未来について気軽に自由に語り合う場所です。交流・学習会や調査研究、社会実験の実施により、未来のまちのイメージを創造し、新たな活動につなげていきます。

R3	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○アーバンデザインスクール：前期は「アーバンデザインの探求」、後期は「子育てからまちづくりを考える」をテーマとして、健幸都市づくりにつながるスクールを計10回実施し、延べ175人の方に参加いただきました。 ○アーバンデザインセミナー：未来の草津市を考える上で必要となる要素として、健幸都市づくりをテーマに含んだセミナーを計10回実施し、延べ196人の方に参加いただきました。 ○社会実験準備事業等：健幸都市づくりに関係するテーマを設定し、包括協定締結大学を対象に調査を募集し、立命館大学、滋賀大学、滋賀県立大学とともに5つのプロジェクトを実施しました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○産学公民連携の促進を通じて、各種事業で健幸都市づくりについて考えを深めてもらうことができましたが、令和3年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ほとんどがオンラインでの開催となったため、参加者同士の議論の機会が少なくなりました。 ○セミナー等の参加者を増やすことを目的に、SNS等の特性を活かして広く周知していく等、産学公民をつなぐUDCBKとしての取組をさらに展開していく必要があります。
R4	計画	<p>(予算額:1,828千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○草津の未来を考える産学公民のプラットフォームとしてUDCBKの機能を高め、アーバンデザインスクール、アーバンデザインセミナー、社会実験準備事業等を実施します。